

●太古の磐座いわくらがある市内最古の洛西の鎮守社です

松尾大社



↑ 拝殿の絵馬。
干支ごとに変わるため、
家族のアルバムにも最
適のスポットになります。

概 略

市内の東西のメインストリート、四条通の西端、八坂神社と東西対の形で、古代の御鎮座場であった磐座があり、今も原始林の様相を残す松尾山を背景に、松尾大社があります。

この神社は市内でも最も古い歴史を持っており、現在の御社殿の場所に大宝元年(701年)、文武天皇の勅命により、秦忌寸都理が松尾山の神霊を移し、造営したものです。平安京遷都後は、賀茂社と共に皇城鎮護の神として、東の巖神、西の猛霊と称せられ、また、室町時代後期からは、お酒の神様として、全国の酒造家から信仰を受けています。

また、磐座のある松尾山は神聖な地とされていたため、人の手が入らず、幸いにも原始の形をとどめた照葉樹林として、また、南方系植物であるカギカズラの自生地の北限地として、非常に貴重な自然環境を残しています。



太古の
歴史と自然を
味わうことができる
スポット、それが
松尾大社です。



知っていますか？

松尾大社は、洛西及び丹波地方を開拓された大山咋神おお やま くのりと海上安全の神なまの中津島姫命つしまひめのみことを祭神としています。

大山咋神はかつて、保津峡を掘って亀岡にたまった水を流し、人が住めるようにした後に、鯉と亀に乗って桂川をさかのぼり、人々の様子を見に行かれたとされています。今も亀岡市には、鯉のぼりを揚げない地域があるといわれています。また、海上安全の神が祀られているのは、秦氏はたが航海の安全を祈願して九州の宗像大社の神を勧請したと言われています。

松尾大社のお祭り



五穀豊穰を願う御田祭、210日前後の風雨安息を願う八朔祭など多くのお祭りがありますが、4月の神幸祭(お出で)、5月の還幸祭(おかえり)が有名です。神幸祭(4月20日以降の最初の日曜日)は、6基の神輿と1基の唐櫃が桂川を舟で渡り、西七条等の複数の旅所に渡御するお祭りです。還幸祭は、賀茂祭と同様葵の葉をかけています。

また、下賀茂神社の祭神は大山咋神の子どもで上賀茂神社は大山咋神の孫とされており、共に祭礼時に葵を用いており、松尾大社の祭りも西の葵祭りと言われていました。なお、同じく大山咋神を祀り、都の鬼門を守るとされる比叡山の日吉大社、加茂神社、松尾大社は、兄弟社として、祭礼を一緒にしていたとのこと。

ちなみに、日吉大社は祭礼時に桂を用いており、毎年4月に行われる山王祭では、2体の神輿が琵琶湖を渡るという祭礼が行われているのも興味深いですね。



↑松尾大社神幸祭



↑6基の神輿が納まる神輿庫。前には全国の酒樽が並んでいます。銘柄を当ててみませんか？

太古の歴史を物語る境内



協働請



鳥居の原型か？

二の鳥居に榊をぶら下げています。これは、毎年正月前に取り替え、榊の枯れ方で月々の農作物の豊凶を占っていたとされています。また、地域によっては、大木の間に注連縄を通して鳥居の形にしたり、榊を垂らしているところがあり、鳥居の原型ともされています。

鳥居をくぐるたびに神に近づくと言われており、身が引き締まる思いがしました。

一の井川



↑約1,000本植えられたヤマブキが最高です。

秦氏の偉業を伝える用水路

4~5世紀ごろ、秦氏は現在の渡月橋の少し上流に葛野大堰を築造し、現在の中ノ島のような人口の中州によって桂川を二分し、「一の井」と呼ばれる灌漑用水を作りました。

また、神社には多くの川がかかっており、その川を越えることが身を清める禊の意味があるとのことでした。

現在、松尾大社の境内を流れている「一の井川」は角倉了以が改修した名残とのことでしたが、「一の井」と同じような場所から取水していたと考えられており、2つの関係が気になります。

太古の鎮座地松尾の猛霊を感じる神秘的な場所

松尾山の8合目に、西暦700年まで祭礼が行われていたという磐座(旧鎮座地)があります。かつては、神官しか入ることができなかった神聖な場所でしたが、平成16年に登拝道が整備され、一般の登拝が可能になりました(有料)。

磐座までは、約1.5キロの急な坂道のため、息が上がってしまうような道ですが、たどり着いたときの感激はひとしおです。

水元さん

霊亀の滝、亀の井の水源

登拝道を登っていくと、地元の方が「水元さん」と呼んでおられる石柱で囲まれた霊亀の滝、亀の井の水源を見ることができます(写真撮影禁止)。この場所は、3つの谷が合流する地点で近くに神木とされる一本杉があります。

親しみを込めて「さんづけ」をされるところが、京都らしいですね。

松尾山の植生

原始の森
照葉樹林が残る貴重な環境

松尾山は少し離れてみると、もこもこした感じで木が生えていることに気がきます。これが照葉樹林で陰樹である椎や檜、光を好む陽樹が育ち、原始林の面影を伝えています。各地の神社の裏山がそうした林になっています。

この山の場合は、それに加えて、南方系の植物である「カギカズラ」の自生地の北限となっている点に特徴があります。

この「カギカズラ」も秦氏が持ち込んだという考え方もあり、この両者の関係に思いをはせるのも面白いかもしれません。





写真：松尾大社提供（平成16年7月 磐座登拝道山開き祭の様子）

↑頂上近くの斜面に高さ5メートル幅20メートルに及ぶ巨岩がせり出しています。緑のコケに覆われた威圧感のある巨大な磐の壁は陽光も十分に届かず、薄暗い静寂の中でどっしりと腰を下ろしたその姿は神々しい雰囲気漂う祭神の「猛霊」を感じる神聖な場所でした(写真撮影禁止)。



↑展望所。市内が一望できる展望台があり、市内や比叡山が一望できるビューポイントです。



月読神社

安産・月の神つきよみのかみ月読尊つきよみを祀る延喜式にも載った屈指の名社

松尾大社から歩いて10分ほど南に行ったらここにあります。

日本書紀によれば、顕宗天皇の3年(437年)、阿倍臣事代という者が任那に使わしたとき、神のお告げを受けたので、京に還ると天皇に奏上して、山城国葛野郡の荒櫛田の地(桂川沿い、現在の上野辺付近)を神領として賜り、月読尊を祀る神社を創建しました。

その後、仁寿3(853)年痲瘡が流行し、多くの子どもが亡くなったとき、月読尊のお告げにより、現在地に移りました。かつては延喜式にも載り、正一位に列せられる名社でしたが、現在は松尾大社の摂社となっています。この理由についてはよくわからないとのことでした。